博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏　　名	久保 有朋
学　　位	博士（学術）
学 位 記 番 号	新大院博（学）第 220 号
学位授与の日付	令和２年３月 23 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
博 士 論 文 名	料亭型花街における空間構成の変遷並びに景観の実態
論 文 審 査 委 員	主査　教授・岡崎 篤行
	副査　教授・西村 伸也
	副査　教授・加藤 大介
	副査　准教授・黒野 弘靖
	副査　准教授・松井 大輔

博士論文の要旨

花街は、日本の伝統文化をハード・ソフトともに包括的に継承する唯一の場であり、稀有な都市空間といえる。近年は、その文化的、建築的価値が再評価され、各地で地域活性化に資する文化資源としても注目されつつある。

しかし、現在の大半の花街の都市空間は、昭和中期までと比較して大きく変化しており、昭和初期・中期の花街の都市空間並びに戦前の景観が残る花街における景観の特徴を明らかにすることは喫緊の課題とされている。

本論文では、芸娼妓分離期における花街空間の変遷を把握するため、第一に全国の芸妓中心の花街における成立時期及び成立過程を類型化している。加えて、代表的な伝統的料亭型花街である新潟古町を事例として、花街に関わる規制の変化やそれに伴う芸娼妓や貸座敷・花街建築の空間的分離の変遷、花街の形成過程を明らかにしている。第二に、新潟古町、東京新橋、八王子中町の三地区を対象として、昭和初期から現在にかけての料亭型花街における花街建築の分布の変遷を明らかにしている。さらに、既往研究の調査結果を併せ、全国各地の花街における分布的特徴並びに分布的・業種的変化を類型化することで、より普遍的な料亭型花街における都市空間の特性を示している。第三に、新潟古町を対象として、花街建築及び元花街建築の分布と歴史的建造物の分布並びにその用途毎の外観的特徴を明らかにしている。加えて、戦前の歴史的景観が残っていない料亭型花街である八王子中町を対象として、現状の景観の価値及び課題、並びに景観整備活動の実態を明らかにしている。

その結果、主に以下の三点が明らかにされている。

(1)芸妓中心の花街の成立過程に関して、東京では娼妓中心の花街又は遊廓から江戸～明治期にかけて芸妓中心の花街に移行するパターンがよく見られたが、地方都市では芸娼妓混在の花街が明治期の遊廓建設を機に芸妓中心の花街に移行するパターンが広域的に確認された。新潟古町における貸座敷・料理屋・待合の分布の変遷を見ると、明治中期には料理屋は現中核部に多く分布し、遊廓統合完了後の明治末期～大正末期には現中核部へ料理屋と待合の集約が確認された。街路の形成過程に関しては、既往研究と比較し各新道の推定形成時期をより絞ると共に、現存する路地の内10本の形成過程を既往研究より、さらに詳細に明らかにした。

(2)花街建築数の推移に関して、昭和初期から現在にかけて一定の減少傾向が読み取れた。花街建築の分布傾向に関して、料亭型花街においては一画集積型と中核部形成型が多いが、一部市内散在型の花街も見られた。花街建築の分布の変遷に関しては、昭和初期から昭和後期にかけて全国的に分布傾向に殆ど変化が見られないが、東京新橋では置屋の分布範囲が大きく変化してきたことにより、花街建築の分布傾向にも変化が見られた。
(3)料亭型花街の景観に関して、新潟古町において、料理屋・待合では前庭や塀等を有する屋敷型の配置形態がよく見られるが、一方で置屋では町屋型が多い傾向であった。この傾向は東京都内の花街にもよく見られることから、料亭型花街に一定程度共通する傾向だと推測される。また、戦前の歴史的景観が残っていない八王子中町においては、数寄屋造りの花街建築や元花街建築等の景観資源は少数見られる。加えて、大半の建築物は三階建て以下で無彩色の外壁であり、大通り沿い以外では統一感のある景観が形成されている。よって、今後、景観ルールの策定及び修理修景の補助制度の拡充が図られることで、良好な景観の形成が可能な地区と考えられる。

審査結果の要旨

本論文は、料亭型花街の空間構成に関して、その変遷並びに景観の実態について、重要な事例について分析を行い、さらに全体的な傾向を可能な限り明らかにしたものである。

本論文は、近年、価値が見直されている料亭型花街の空間構成について、極めて有益な知見を示しており、今後の全国的かつ網羅的な研究の主要な基盤となるものであり、ひろく歴史学、地理学、行政学、民俗学等にも関連しつつ、建築学、都市計画学に関する重要な貢献をなす研究と評価できる。よって本論文は、博士（学術）の博士論文として十分であると認定した。